

正しく表示されない場合、[こちら](#)からご覧いただけます。



最新規格に対応した製品のパフォーマンスは、本当に速くなったのでしょうか？

最新のネットワーク・プロトコルであるWi-Fi 7や新世代のPCIe Gen 5.0、Thunderbolt 5などが登場し、それに伴って製品もより高速な伝送や接続性能を発揮すると期待されています。しかし、実際にはどうなのでしょう？アリオンが行った実測テストの結果から、その実際の性能向上について検証してみました。



実際の検証結果は？ >



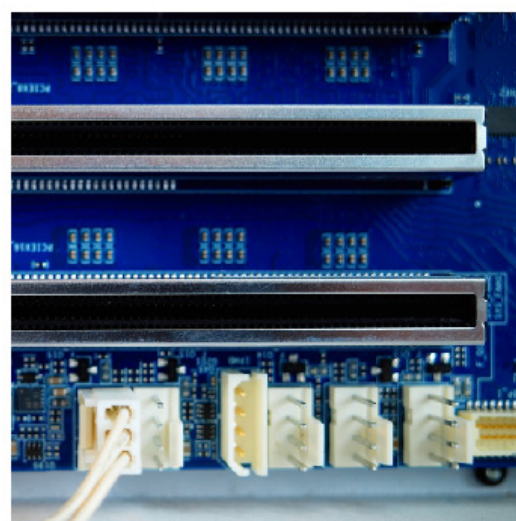
Wi-Fi 7のワイヤレスパフォーマンス、一体どうなったのか？

Wi-Fi 7は最新のWi-Fiネットワーク通信プロトコルで、通信速度の高速化と遅延の低減を実現するだけでなく、拡張現実（AR）や仮想現実（VR）など、より多様な応用シーンにも対応することが可能です。ゲームやクラウドコンピューティングなど、前世代のWi-Fi 6およびWi-Fi 6Eに基づいて拡張され、応答能力と信頼性が大幅に向上しています。主な新機能には、320 MHz チャネル、4K QAM、MLO（マルチリンクオペレーション）、マルチRU（リソースユニット）、パケットチャリングなどが含まれます。

Wi-Fi 7に対応するチップが市場で流通し始めたのは2023年の第4四半期とのことで、Wi-Fi 7関連デバイスは市場にはそれほど多くありません。ほとんどは、ワイヤレスネットワークカード、携帯電話、ワイヤレスルーターといった製品です。

アリオンは、市場で代表的な製品を定期的に入力して研究用サンプルとしています。そこで、関連製品でWi-Fi 7の速度をテストしました。

実測結果はこちら



新世代のPCIe Gen 5への道！ NVMe SSDパフォーマンス編

PCIe 5.0（Gen 5）の登場に伴い、インテル、AMDなどの主要チップメーカーが競々と対応し、PCIe Gen 5は高性能システムにおいて重要な役割を果たすことが期待されます。PCIe Gen 5の性能が前世代のPCIe Gen 4の2倍に向上し、従来の16GT/sから32GT/sを実現できます。また、PCIe Gen 5は16倍（x16）のチャネル帯域幅を持ち、最大で128Gbpsの速度に達することができます。

PCIe Gen 5は高性能な仕様のため、通常の検証システムを使用してテストを行うと、テストプラットフォームの性能がそれに対応できない可能性があり、製品のパフォーマンスを十分に引き出せないことから、テスト結果の信頼性が懸念されます。そのため、豊富なSSD検証経験を持つアリオンは、早くからPCIe 5.0 SSD検証プラットフォームである「SANBlaze RM5」を導入しました。今回は、SANBlaze RM5を使用してエンタープライズ向けSSDのパフォーマンスを検証し、その結果を分析します。

もっと見る



高速Thunderbolt PCの転送効率が、古いコンピューターよりも遅いのはなぜ？

USB4およびThunderbolt 4製品は、個人のノートパソコン、拡張ポート、モニター、外付けハードドライブ、外付けグラフィックスカードなどへ広く普及しています。最近インテル社は、Thunderboltケーブル1本で高速データ転送と高解像度の画面を楽しむ最大で単方向120Gbpsの転送をサポートする、Thunderbolt 5を2024年にリリースすると正式に発表しました。

高速転送が主なセールスポイントとなっていますが、アリオンが実際にテストした結果、実際の転送効率が低いと、ユーザーエクスペリエンスが大きく損なわれる可能性があることが分かりました。

テスト結果をすぐ確認

Follow on Facebook >

すぐ相談
お問い合わせ

本メールは過去当社にお問合せをいただいた方や名刺交換をさせていただいた方に送信しております。メール配信が不要の場合、お手数ですが下記リンクにて配信停止の処理をお願いいたします。

\$(UNSUBSCRIBE_EN)